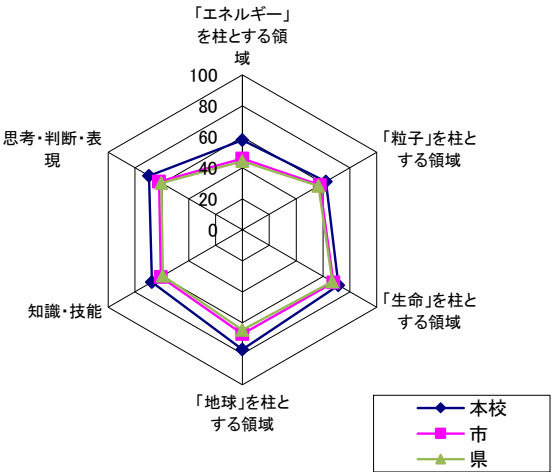


宇都宮市立富士見小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	57.9	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	62.2	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	71.5	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	77.2	67.2	64.6
観点	知識・技能	67.4	60.8	59.2
	思考・判断・表現	69.6	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○本領域の平均正答率は57.9%で県の正答率を13.6ポイント上回った。 ○「簡易検流計の針のふれ方から分かることを答える」の平均正答率が51.5%で県の正答率を21.3ポイント上回った。 ○「電流が同じ回路を選ぶ」の平均正答率が56.3%で県の正答率を14.2ポイント上回った。	・全ての設問で県の正答率を上回り、学習内容を理解していることが分かる。理科に関する基本的な知識はしっかりと身に付いていると思われるので、今後も継続して基礎・基本を押さえながら、さらに発展的な問題についても指導していく。
「粒子」を柱とする領域	○本領域の平均正答率は62.2%で、県の正答率を5.6ポイント上回った。 ○「金属の温度と体積の変化について選ぶ」の平均正答率が94.2%で県の正答率を7.5ポイント上回った。 ○「湯気について選ぶ」の平均正答率が45.6%で県の正答率を14.6ポイント上回った。 ●「仮説が正しかった場合の実験結果を選ぶ」の平均正答率が31.1%で県の正答率を1.8ポイント下回った。	・ほぼ全ての設問で県の正答率を上回り、学習内容を理解していることが分かる。今後も実験結果から分かったことを考える時間を十分に確保し、自分の言葉でノートに書いたり、グループの友達と話し合ったりすることで、科学的思考力を高め、理解を深められるようにする。
「生命」を柱とする領域	○本領域の平均正答率は71.5%で、県の正答率を4.6ポイント上回った。 ○「骨と関節の名称を答える」の平均正答率が91.3%で県の正答率を10.3ポイント上回った。 ●「ヒョウタンののびを正しく表したグラフを選ぶ」の平均正答率が78.6%で、県の正答率を1.9ポイント下回った。	・観察などを通して学習した内容が、生活のどのような場面で見られるかを紹介したり、どのようなものに生かされているかを考えるように声をかけたりすることで、日ごろから興味・関心を高め、知識と生活が結び付けられるように工夫をする。 ・表やグラフを比べて考えることができるように、普段から表やグラフが何を表しているか明らかにし、根拠をもって説明する活動を取り入れていく。
「地球」を柱とする領域	○本領域の平均正答率は77.2%で、県の正答率を12.6ポイント上回った。 ○「気温のはかり方として正しいものを選ぶ」の平均正答率が83.5%で県の正答率の23.2ポイント上回った。 ○「水の流れる向きを選ぶ」の平均正答率が95.2%で県の正答率を14.6ポイント上回った。 ○「星の色にはちがいがあことを答える」の平均正答率が70.9%で県の正答率を15.2ポイント上回った。	・ほぼ全ての設問で県の正答率を上回り、学習内容を理解していることが分かる。今後も、前に学習した実験の知識を生かして、関連付けて考えさせていくとともに、自然の事物や事象についての問題を投げかけたり、疑問をもたせたりするなどして、興味・関心を高めるようにする。